



がっこう 学校だより

がっこう
12月号



**Challenge
Dream
Interaction**

れいわ ねん がつ にち
令和4年11月30日
よこはま しりつかみい いだ しょうがっこう
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>

こころ はず 心のマスクは外して

こうちよう よこやまよしあき
校長 横山 美明

11月1～2日に5年生が御殿場宿泊体験学習に行ってきました。今年度は3年ぶりに4・5・6年生の宿泊体験学習を実施することができました。つきましては、子ども達の健康管理に努めてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。

私は6年生の片品・日光修学旅行と5年生の御殿場宿泊体験学習に同行しました。子ども達はマスクをする習慣が身に付いており、バスでの移動中や活動中もマスクを着用し、食事の際も黙食をしっかりと守っていました。感染防止という点ではとてもいいことであり、集団生活を送っている学校としてはとてもありがたいことではあります。マスクの習慣化が感染予防ということだけでなく、感染の心配があまりない屋外の活動でもマスクを外すことができなかつたり大きな声を出して笑ったりすることができなくなっているのではないかと思うこともあります。5年生の体験学習ではその名の通り体験的なアクティビティが数多くありました。2日目の富士（弟山）登山では、ガイドさんが「山登りの時はマスクを外しましょう！」と呼びかけてもすぐには外さない子どもおり、歩き始めて先生方が個々に声をかけることでやっとマスクを外すという場面もありました。登山の途中で何回かに分けてお弁当を食べましたが、その時も黙食はもちろんのことほとんどの子が食べ終わるとすぐにマスクを着けていました。子ども達は学校生活ではいつもマスクを着けているので、特に声掛けがなければそれが通常となっているようです。

人がコミュニケーションをとる時には、言葉だけでなく表情や身振り手振りも大切な想いを伝える手段となっています。成長段階にある子どもがマスクを着けた生活を続けると、相手の気持ちを読み取る力が落ちる可能性もあるとも言われています。

今年の流行語大賞のノミネートに「顔パンツ」という言葉が入っています。これはコロナが収まってもマスクを外して顔を人前でさらすことに抵抗を感じる程マスクが外せない状況になっているということから出てきた言葉だそうです。これに共感する人も多く、ある調査によると、気持ちが「分かる」「やや分かる」と答えた人は10、20代の半数以上で、女性の方がその割合が高く、年齢が上がると減る傾向にあるものの、60代女性の約4割が理解を示したということです。

この冬は、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行の可能性が指摘されており、新型コロナウイルス感染についても、第八波の到来と言われるように感染者数が増えている状況です。そうした中であって、感染防止に努めることが最優先ではありますが、屋外での活動等、感染のリスクが少ない場所では、マスクを外して深呼吸をしてみたり大きな声を出してみたりする経験を子ども達ができるといいなと感じています。今は、まだマスクが外せなくても、状況が落ち着いてきた時に「顔や表情を見られたくない、隠したい」というこころのマスクを外せるように、冬休みには、ご家庭でも子ども達にそうした経験ができるような機会を作っていただけるとありがたいです。